

## 【特別寄稿】

# シルク・ドゥ・ソレイユを中心とするケベック発 現代サーカスの現況と課題

## Situation actuelle et enjeux du Cirque du Soleil et des compagnies de cirque contemporain au Québec

西元まり  
NISHIMOTO Mari

キーワード：シルク・ドゥ・ソレイユ、破産保護申請、現代サーカス、サーカス芸術、コロナ禍

Mots-clés : Cirque du Soleil, Demande de protection en cas de faillite, Cirque contemporain, Art du cirque, COVID-19

### はじめに

「ヌーヴォーシルク（仏：Nouveau Cirque; 英：New Circus/Contemporary Circus）」は、1970年代にフランスで誕生したといわれている<sup>1</sup>。日本では当初そのまま「ヌーヴォーシルク」と呼ばれていたが、2000年に入って「現代サーカス」と呼ばれるようになった<sup>2</sup>。ケベックにおいては、1981年にサーカス学校（現・ナショナルサーカス学校／仏：l'École Nationale de Cirque 略称 ENC; 英：National Circus School 略称 NCS）が、1984年にシルク・ドゥ・ソレイユ（Cirque du Soleil）が創設されて以来、自国のヌーヴォーシルク、現代サーカスの系譜が生まれ、サーカスはケベック州を代表する文化芸術産業のひとつにまで成長した。そればかりか、モンリオールは今や世界に誇るサーカス芸術都市となり、トップレベルのサーカスアーティストを目指す若者が世界中から集まる聖地となった。

大きなきっかけとなったのは、1996年にサーカス芸術を支援する協会アン・ピスト（En Piste：サーカス芸術全国ネットワーク）がつくられたことだろう。アン・ピストは翌年法人化され、カナダ初のサーカス芸術連合組織となる。アーティスト、指導者を育成する体制が整い、1999年にはサーカス芸

術都市計画 (Cité des arts du cirque) が始動した。その一環として、シルク・ドゥ・ソレイユ国際本部 (本社) とナショナルサーカス学校はサン・ミッシェル地区 (Saint-Michel) に移転する。2004 年にはこの地区の中心に、円形劇場や公園も整備されたコミュニティ施設「トウ (TOHU)」が誕生した<sup>3</sup>。2010 年からは、TOHU や市街地の劇場、野外広場や公園、ビルの屋上などを舞台として、モンリオール・サーカス・フェスティバル「MONTRÉAL COMPLÈTEMENT CIRQUE」が毎年 7 月に開催されている。

サーカス学校の卒業生は、シルク・ドゥ・ソレイユなどで活躍するだけではなく、自分たちでサーカスカンパニーを立ち上げていった。1993 年設立のシルク・エロワーズ (Cirque Éloïze) や 2002 年設立のレ・セット・ドワ・ド・ラ・マン (Les 7 Doigts de la main; 英: The 7 Fingers) は、世界で成功を収めるカンパニーに成長し、それぞれがモンリオールに大きな自社スタジオを所有して、後進の育成や作品のクリエーション、一般市民や子供向けのサーカスプログラム、社会課題解決のためのソーシャルサーカスプログラムを行っている。この 2 つのカンパニー以外にも、多くの若者がサーカスカンパニーを立ち上げている。

しかし、COVID-19 によって 2020 年 3 月、ほぼ全てのサーカス公演やトレーニング活動は中断された。そればかりか、シルク・ドゥ・ソレイユが 5 千人近い従業員と出演者を一時解雇し破産保護申請を行ったというニュースが流れ、世界を驚かせた<sup>4</sup>。

2020 年度ケベック学会全国大会での講演では、最初にケベックにおける現代サーカスの歴史を概観し、次にシルク・ドゥ・ソレイユの破産保護申請に至るまでの原因について検証・分析した。次に、コロナ禍以降のケベック現代サーカスカンパニーの状況を報告した。そして最後に、日本などアジアの現代サーカスの近年の動きも併せて報告し、ここ数年、現代サーカスが世界的に大きなうねりをもって活発な動きを見せていること、それもシルク・ドゥ・ソレイユなどの影響が少なからずあることなどを提示した。

本稿は、上記の講演を実施した 2020 年 10 月 4 日から半年が経過したことにより鑑み、2021 年 4 月 30 日までの約半年の新情報を追加更新し検証、考察したものである。1 章でシルク・ドゥ・ソレイユの破産保護申請に至るまでの原因について述べた上で、2 章及び 3 章でコロナ禍におけるケベックのサーカス芸術従事者の現況、行政の支援策を、アン・ピストの報告書に基づき検証する。そして 4 章で、中堅ケベックサーカスカンパニーの活動状況や現況

を提示し、最後にこれらから浮き彫りとなった問題と今後の課題を明らかにするものである。

なお1章の詳細と分析、検証については、2021年7月刊行の研究紀要『Arts and Media vol.11』（大阪大学大学院文学研究科文化動態論専攻アート・メディア論研究室編集発行）に研究ノート「コロナ禍におけるシルク・ドゥ・ソレイユ経営破綻分析」として論考を寄せているため、本稿では要約に留めた。また、2021年9月刊行時までにさらなる状況の変動や情報修正がありうることを、あらかじめご了解いただきたい。

## 1. シルク・ドゥ・ソレイユ破産保護申請までと申請後の動き（2021年4月23日更新）

シルク・ドゥ・ソレイユは、1984年の創設以来、延べにして約50の作品を制作している。コロナ禍以前までの上演作品数は、常設ショー（アメリカ・ラスベガス、メキシコ、中国など）とツアーショー（アリーナ及びテントショー）とで、17作品あった。筆者は、全てのショーがコロナ禍によって休演となる以前の状況に注目し、経営基盤と作品制作の変化を追った。最初に創設以降のシルク・ドゥ・ソレイユの変遷を時代で分類し<sup>5</sup>、2001年を大きな節目ととらえた上で<sup>6</sup>、2001年以降の時代を次の4つの区分に分けて解説した。

すなわち、①2001-2007年を「変革期（輸血の時代）」とし「社外から多くの専門家を呼んだ時代」、②2008-2014年を「再建期（外科手術の時代）」とし「経営が傾き、リストラやコスト削減を進めた時代」、③2015-2019年を「脱皮期（脱サーカスの時代）」とし「ミュージカル、映画、アイススケートやサッカーなどをモチーフに、サーカスらしさをぬぐう方向へ」、④2020年以降を「混迷期（コロナ禍の時代）」とし「先行き不透明な状況」——という4つの区分である。

独自ブランドを確立し、競争相手のいないブルー・オーシャン<sup>7</sup>を泳ぎ続けて長年成功を取めてきたシルク・ドゥ・ソレイユであったが、2008年のリーマンショックの余波や東京及びマカオの常設劇場の早期撤退の影響から、2012年、②のようなリストラやコスト削減という状況を余儀なくされた。最も大きな変化があったのは、③の2015年である。この年、創設者のひとりであり「クリエイティブ・ガイド&ファウンダー」という肩書であったギー・ラリベルテ（Guy Laliberté）が、持ち株の90%を売却した<sup>8</sup>。シルク・ドゥ・

ソレイユは未公開株式会社であったため、非公開の数字ではあるが、2008年に27億ドル、2013年に22億ドルあった企業価値は、2015年には15億ドルとなっていた<sup>9</sup>。2015年、ラリベルテは「クリエイティブ・アドバイザー」として残るものの、シルク・ドゥ・ソレイユの生命線であった作品の質の管理への関与が薄れていく。そして2020年2月にラリベルテは、残りの10%の持ち株を売却した<sup>10</sup>。

作品の質の管理については、シルク・ドゥ・ソレイユは創設以降、年平均1ないし2作品を、時間をかけて丁寧に制作してきた<sup>11</sup>。だが2017年は3作、2018年はインドツアー進出のために1作、2019年は中国常設劇場を含む6作を制作した。それらの中には、演出の質や舞台装置、出演者のけがなど多くの問題が発生し、開幕を延期、あるいは早期閉幕したものもあった。さらに、2020年には4作もの新作の開幕を目指して同時進行で準備を進めていた。このようにシルク・ドゥ・ソレイユは、解決すべき課題を多く抱えた状況下でコロナ禍を迎えることとなったのである。

以上の内容を総括し分析すると、経営破綻に陥った要因は、①コロナ禍以前からの経営難<sup>12</sup>、②新作を含む作品の質に対するラリベルテの関与の低下、③中国市場進出への焦り——の3点に絞れよう。

3月の全作品上演中止と約5000人の従業員一時解雇の後、5月初旬、シルク・ドゥ・ソレイユは売却の可能性も含めた選択肢の検討を銀行に委託した。ケベック州政府は外国企業に売却される懸念を取り除くため、公演再開支援として2億ドルの条件つき融資を申し出た<sup>13</sup>。株主らも持ち株比率に応じて、つなぎ資金約5000万ドルを追加投資する。しかしながら6月30日、会社の債権者整理法(CCAA)に基づいて債権者からの保護を申請し、ケベック州の高等裁判所がこれを承認した。一時解雇中の従業員のうち、約3480人の完全解雇も発表された<sup>14</sup>。

結果的に既存株主ではなく、カナダ・トロントのカタリスト・キャピタル・グループ(Catalyst Capital Group Inc.)が、12億ドルで経営権を取得したと8月18日に発表される<sup>15</sup>。創立以来、初めてケベックの株主が不在となったのである。この件について、ケベック州経済大臣のピエール・フィッツギボン(Pierre Fitzgibbon)は懸念を表明している<sup>16</sup>。

そして、その約3か月後の11月24日、シルク・ドゥ・ソレイユは公式ウェブサイトで、債権者保護からの販売取引を確認したと発表する。モンリオールにある国際本部(本社)は、最低5年間、移転せずそのまま維持され

ることで合意した。経営陣も刷新され、シルク・ドゥ・ソレイユの社長兼 CEO だったダニエル・ラマー (Daniel Lamarre)<sup>17</sup> は、その地位を維持することとなった<sup>18</sup>。

さらに、2021年4月23日、「陽が昇る。幕間は終わった」というメッセージとともに、アメリカ・ラスベガスの常設劇場におけるロングラン作品『オー (“O”)』や『ミステール (Mystère)』を含むいくつかのショーを、同年6月末頃より順次再開すると発表した<sup>19</sup>。2020年には、すでに中国の常設ショー『X: 綺幻之境 - The Land of Fantasy』とメキシコの常設ショー『ホヤ (JOYÀ)』の2作品が再開されているのだが、収益の3分の1を占めてきたラスベガス公演が再開できることで、再建への道がようやく見え始めたといえよう。

## 2. コロナ禍におけるケベックのサーカス芸術従事者の状況

2章では、コロナ禍におけるケベックのサーカス業界全体について、その影響と現況について述べたい。

まずは、2020年4月に発表された COVID-19 影響調査結果を押さえておく必要があるだろう。カナダにおけるサーカス芸術分野の発展を目的に、関係者への情報提供や支援活動を担う連合組織アン・ピストは、サーカス芸術の仕事に従事する自営業者477人と84の組織から、アンケート調査結果を回収し報告書にまとめた<sup>20</sup>。それによれば、コロナ禍以前の2019年の数字として、561人の回答者の32% (約3分の1) は年収が2万カナダドル未満、40%は2～4万カナダドル、16%は4～6万カナダドル、12%は6万カナダドル以上の収入と、シルク・ドゥ・ソレイユの世界的な成功というイメージに反して、サーカス芸術従事者がそれほど高収入ではないことをまず指摘した。その上で、COVID-19の影響によって2020年3月31日の段階で、個人事業者1人平均2287ドル、1組織平均37831ドルを損失したといい、前年度よりさらに厳しい経済状況になったことを提示している。

深刻な影響として、「上演キャンセルなどによる企業の不確実性」(76%)、「芸術プロジェクトの延期・中止」(71%)、「適切なトレーニングの続行不可能」(71%)、「専門的活動の完全停止」(68%)、「自身の営業活動」(55%)という複数回答となった。そのために、回答者の3分の2が「キャリアの移行を検討」、つまり、転職を考えていると答えた<sup>21</sup>。内訳として、9%は確実に転職を考えており、57%は転職の可能性があるというものであった。ケベックのサーカス産業はシルク・ドゥ・ソレイユを見ればわかるように、カナダ国内よりも

海外での上演が事業のほとんどを占めており、収益の9割を国外に依っている<sup>22</sup>。

国内需要としては、トレーニングスタジオを利用したコミュニティサーカス教室や個人トレーニング、ショー制作、企業及び個人向けの特別イベント事業などが中心である。サーカス関係者は、リモートによるトレーニング教室や、過去作品の動画公開、野外でのサーカス動画公開、トークセッションなどを実施している。なかでも6月初旬に公開された4分13秒の動画「Longue vie au cirque québécois」<sup>23</sup>は、ケベックで活動する80以上の企業や組織、約1万人のサーカス関係者が力を合わせてそのコミュニティの力強さをもの語り、「サーカスは生き続ける」というメッセージを訴えかけた。

さらに7月開催のモントリオール・サーカス・フェスティバル MONTREAL COMPLÈTEMENT CIRQUE は、2020年は MONTREAL PRESQUE CIRQUE と変更して、告知なしでモントリオール市街の建物の屋上や階段、バルコニーなどで演技し、オンライン視聴とした<sup>24</sup>。同時開催されてきた現代サーカス国際マーケット MICC (International market of contemporary circus/Marché international de Cirque Contemporain) も、オンラインで開催した。こうしてケベックのサーカス関係者は、「我々は決してあきらめない」という意思と決意を表明した。

しかしながら、2020年11月にアン・ピストが実施した2回目の COVID-19 影響調査では、2019年と比較して2020年は最終的に自営業者1人平均25000ドルの損失(減収)になると予想され、回答者の94%がサーカス芸術の仕事から離れることを検討していると報告された。そして20%がフードバンクを利用し、動産の処分を行い、65%がうつ、あるいは、不安症状に悩まされているという結果が出た<sup>25</sup>。メンタルヘルスをケアする重要性が再確認され、サポートプログラムの検討を進める中で、いくつもの課題が浮かび上がった。それは、コロナ禍において多くの人々が感じている孤立感や不安だけではなく、サーカスアーティストならではの悩みやつらさ——たとえば、身体と精神のバランスの関係や、自己肯定感の喪失、危険を伴う練習への恐怖感などを訴える人が多かった。そして、それらについて相談できる、サーカス芸術に特化したメンタルヘルス専門家がないという事実も判明した<sup>26</sup>。

### 3. アン・ピストが問題喚起するサーカス芸術分野認識の重要性

3章では、アン・ピストの報告書に沿って<sup>27</sup>、コロナ禍以前のサーカス芸

術に関する現状と、それを打開するための方策についての提言をまとめたい。

ケベックでは、新しいサーカスカンパニーが次々誕生し、活発な活動を行っているが、サーカスはどうしても興行、見世物、娯楽、エンタテインメントといった分野の中に位置づけられることが多い。「芸術形式としてのサーカス (circus as art form)」という認識はまだ一般的になされていないと考えられる。アン・ピストによれば、コロナ禍以前の 2018 年の貿易収支では、シルク・ドゥ・ソレイユの数字を抜きにして 19 万ドルをサーカス芸術が占めている<sup>28</sup>。にもかかわらず、国とケベック州芸術文化評議会 (Conseil des arts et des lettres du Québec : 略称 CALQ) からサーカス芸術従事者に支給される補助金は、他の舞台芸術従事者と比べると、2 倍の開きがあったという<sup>29</sup>。そこでアン・ピストは、カナダにおける芸術分野の中で、サーカスが芸術としての形式もっているという認識がなされていない現状と「アーティストの地位に関する法律改正」について、政府に対し次のような問題喚起を行った。

ケベックの人的資源であるサーカス芸術従事者の喪失は、これまでケベックが自国のアイデンティティとして守り、世界でリーダーシップを取ってきたサーカス芸術の存続の危機であり、大きな経済損失にもつながる。リスクを負って身体を酷使するサーカスアーティストはスポーツ選手と同様に、キャリア維持と安全のために理学療法士やコーチ、トレーナー、心理カウンセラーが必要である。平均所得が 3 万ドル以下という不安定な労働状況を鑑みれば、社会的セーフネットに守られるべきであり、国は健全な労使関係を支援する責任を負うべきであるとし、そのための迅速な財政措置が求められた。

ケベック州政府のサーカス芸術への支援策としては、2020 年 6 月に文化通信大臣 (ministre de la Culture et des Communications) のナタリー・ロイ (Nathalie Roy) が 1000 万ドルの支援を発表し、これによってプロのパフォーマーがサーカスタジオを無料で使用できるようになった。続いて 2021 年 4 月 22 日に、2021 年から 2022 年まで 1180 万ドルの資金援助を行うと発表した<sup>30</sup>。これは 3 月 25 日に発表された 2021 年から 2022 年までの文化部門の経済回復計画予算 (追加の 1 億 4700 万ドル) から拠出されたもので、トレーニングの継続、海外での活動再開、リサーチやクリエーション強化に充てられる。

実はアン・ピストは今から遡ること 14 年前の 2007 年に政府に対し、サーカス芸術分野の現状と課題を調査した上で、持続可能性を推進するため文化政策の見直しの提案書を提出していた。サーカス芸術が文化芸術の範疇にあ

ると公式に認めたのは、実はカナダではケベック州だけであり、2008年にモントリオール芸術委員会（Conseil des arts de Montréal）が、そしてようやく2009年にカナダ・カウンスル（Canada Council for the Arts）が認めた。それでも、やはりサーカス芸術分野へのケベック州とカナダの公的、準公的支援は少ないのである<sup>31</sup>。

これは何を意味するか。つまり、カナダにおいてサーカスは、海外で稼ぐ産業であり、国内で育て守るべき芸術文化としては認められていなかったということではないだろうか。それはひとえに、シルク・ドゥ・ソレイユが世界的な成功を収めたが故に、もはや公的支援はさして必要ではないという認識が政府側にもできてしまい、若手のカンパニーに必要な支援が行き渡っていなかったと考えられる。行政からの補助金や支援策は進まず、国内市場がまだ定着していないとアン・ピストは明言している<sup>32</sup>。

これを問題意識、改革するべき課題として、すでに2017年には、それからの10年で一丸となって推し進めるべき戦略の計画書「サーカス芸術部門開発計画2017-2027 — リーチを広げる：サーカス芸術の国家的発展のために（Sector Development Plan for 2017-2027: “Extending our reach: for the national development of the circus arts”）」をまとめた。この中で5つの主要な方向性を打ち出し、17の戦略を提示している。5つの方向性とは、①サーカス芸術の教育ネットワークの促進、②カナダ全土におけるアーティストのクリエーション、制作、リサーチのための財政支援、③カナダ国内需要の拡大と市民がサーカス芸術にアクセスできる環境整備、④サーカス芸術分野構築のための新協働形態、⑤フィランソロピーの推奨とスポンサー企業の募集である<sup>33</sup>。

2021年4月29日、アン・ピストはサーカス芸術の普及促進を目的として、新しいプログラム「Destination Cirque」を立ち上げた。コロナ禍によって国内市場拡大の必要性を再認識したことが発端で、国内の地域とサーカスを結んでいこうというものである<sup>34</sup>。1992年から現代サーカスの取材を開始した筆者は、シルク・ドゥ・ソレイユの常設劇場がカナダ国内やケベック州内はおろか、サーカス芸術都市を謳うモントリオールにさえ存在しない点について、非常に疑問であった。TOHUが2004年に誕生したとはいえ、多くのサーカスカンパニーがありながら、なぜ常時サーカスが観賞できないのだろうか。ケベックのサーカス産業は、輸出一辺倒でケベックには常に「不在」なのであった。コロナ禍でその脆弱性に初めて気づくこととなった。

ロシアや中国、フランス、アメリカ、オーストラリア<sup>35</sup>などサーカス学校

がある国には、サーカス公演が常時上演されているテントや舞台があり、観光としても文化芸術としても重要な位置を占めている。当然歴史もあり、研究も進んでいる。多くの市民は季節ごとに地元のサーカス公演を楽しみにしており、家族で行く習慣がある。ケベックも今後は、サーカスを自国の暮らしの中に位置づけて根付かせていくこと、その積み重ねでサーカスを身近な芸術として認識してもらえるようにすることが課題といえよう。

ちなみにアメリカにも、4月22日にサーカス芸術を擁護する非営利組織アメリカン・サーカス・アライアンス (American Circus Alliance) が発足し、アン・ピストも参加を表明した。ここでも芸術形式としてのサーカスを強調している<sup>36</sup>。コロナ禍において上演が停滞している中で、何をどのように備えるべきか、どうやって生き残っていくべきかを模索している。今後ネットワークを組むことによって打開するための課題を共有し、共に前に進もうとしている。

#### 4. 中堅サーカスカンパニーの現況—新作のクリエイション、映像制作、新事業

ここまでたびたび述べたように、ケベック州ではシルク・ドゥ・ソレイユに追随する中堅サーカスカンパニーの躍進も目覚ましい。それはモンリオールにあるナショナルサーカス学校や、ケベックシティにあるケベックサーカス学校 (l'École de cirque de Québec : 略称 ECQ)<sup>37</sup> など、トップレベルのサーカストレーニングが受けられる教育機関があるからにほかならない。カヴァリア (Cavalia)<sup>38</sup> のように、70頭もの馬を使った現代サーカス事例もあるのだが、5章では、サーカス学校卒業生らによって設立されたカンパニーを抜粋し、その動向を紹介する (以下では、来日公演があったショーはカタカナ表記を併記した)。

##### 4-1. シルク・エロワーズ (Cirque Éloize)<sup>39</sup>

シルク・エロワーズは、ナショナルサーカス学校卒業生でマグダレン島出身のジャンヌ・ペンショール (Jeannot Painchaud) やダニエル・シール (Daniel Cyr) らが1993年に設立した。日本でも、『シルク・オーケストラ (Cirque Orchestra)』『アイディー (iD)』『サルーン (SALOON)』などのショーが上演された。音楽との融合を図り、サーカスアーティストが舞台で楽器を演奏する演出を盛り込んでいる。社会貢献活動として、ソーシャル・サーカス活動

も早期より行っている。モンリオール市の助成を受けて活動する 2005 年設立のエロワーズ財団では、アーティストを派遣し、イスイットの若者の自殺防止対策や、暴力防止プログラム、芸術を使った治療環境を提供するプログラム等を実施している。旧市街地にある専用スタジオは、以前ナショナルサーカス学校が使用していたもので、ケベック文化通信省、文化通信大臣、CALQ などの援助により、現在無料でサーカスコミュニティに開放されている。

コロナ禍の影響としては、エロワーズ 25 周年に際し 15 作目の新作『HOTEL』をプラスデザール (Les Spectacles Place des Arts)、TOHU40 と共同制作し、2020 年冬に上演予定だったが、2021 年に延期となった。また、2020 年開幕予定だった新作『Serge Fiori, Seul Ensemble』は、中止となった。エロワーズには日本人アーティストの浦和新がいる。彼はナショナルサーカス学校を卒業した後、ディアボロという演目でエロワーズにスカウトされ、『Cirkopolis』と日本公演もあった『サルーン』のツアー公演に出演していたが、コロナ禍により現在は日本に帰国している。

公演が中断する一方で、新事業も展開している。エロイズ・エキスポ (Éloize Expo) という部門を創設し、デジタル映像によるインタラクティブ展覧会「Sous les glaces avec Mario Cyr」を 2021 年 6 月 2 日から 10 月 31 日まで自社スタジオで開催する。カナダ北極圏の大自然に生きる動物の 45 分間の映像で、没入型体験ができる展覧会となっている。

#### 4-2. レ・セット・ドワ・ド・ラ・マン/セブン・フィンガーズ (Les 7 Doigts de la main/ The 7 Fingers) <sup>41</sup>

今最も勢いがあるのが、セブン・フィンガーズと言っても過言ではない。サミュエル・テトロ (Samuel Tétreault)、ジプシー・スナイダー (Gypsy Snider) らナショナルサーカス学校卒業生 7 人で 2002 年に設立した。全員が演出を手掛けつつ、若手の育成を行うのが特徴である。作品の特長は、リアルな若者の日常を等身大で表現する舞台設定で、日本でも『ロフト (LOFT)』『トレーシーズ (TRACES)』『サイ (PSY)』などが上演された。スナイダーによるサーカス演出が多く盛り込まれ、日本にも 2 度来日したブロードウェイ・ミュージカル『ピピン (Pippin)』は、高く評価され成功した。2021 年 5 月 6 日からモスクワで再演されている『PRINCESSE DE CIRQUE』はロシアのモスクワ・ミュージカル・シアターとの共同制作であり、このように、新

たな芸術ジャンルとのコラボレーションにも挑戦している。

イザベル・シャセ (Isabelle Chassé) とシャナ・キャロル (Shana Carroll) の2人の演出による常設ショー『Soul of the Ocean』が、香港のオーシャンパークで2020年1月から上演の予定だったが、コロナ禍によりパークが閉鎖となった。これは、マルチメディアや水をふんだんに使った大規模なショーであり、セブン・フィンガーズにとっては初のアジア常設劇場公演となるはずであった。その代わりに8か国から集められた出演者たちが隔離中のホテルでトレーニングする動画「Hotel Chronicles / Ocean Park Lagoon<sup>42</sup>」が公開された。7作目の新作『Passagers』は2021年に延期され、2作のクルーズ船での作品『Ships in the Night』『DUEL REALITY』も控えている。2020年9月には、コロナ禍をテーマにした作品『EN PANNE / OUT OF ORDER』をCALQとTOHUの支援を受けて制作していたが、上演が不可能となったレッドゾーンの段階で映画につくり変えた。彼らの創作意欲は衰えることなく、次々と挑戦を続けている。

2019年に開設した自社スタジオ「セブン・フィンガーズ・クリエーション&プロダクションセンター」は、コロナ禍により2020年3月中旬から閉鎖していたが、州政府の援助と、CALQ、アン・ピストの協力により、無料でサーカスコミュニティに開放されている。さらにデジャルダン (Desjardins) の後援により、若手のサーカスアーティストは50日間の無料トレーニングを受けられる。コーチングやトレーニング、チームビルディングのための企業向けプログラムも開発し、展開している。こうしたプログラムやトレーニングはオンラインでも可能なため、コロナ禍で生き残りを考えていく舞台関係者にとって、新しい事例となるような事業である。これもソーシャル・サーカスの応用編といえるだろう。

#### 4-3. シルク・アルフォンス (Cirque Alfonse)<sup>43</sup>

昔懐かしいケベックの田舎の暮らしを呼び戻すような民話的世界観で、ユーモアとジョーク、ペースを感じさせる現代サーカスをつくってきたのが、2005年設立のシルク・アルフォンスである。メンバーは、ケベック州のサントルフォンス＝ロドリゲス (Saint-Alphonse-Rodriguez) 出身の親族と友人で構成されている。ナショナルサーカス学校出身のアントワヌ・カラビニエ・レピーヌ (Antoine Carabinier Lépine) とジョナサン・カサウボン (Jonathan Casaubon)、ケベックサーカス学校出身のフランシス・ロベルジュ (Francis

Roberge)、ダンサーのジュリー・キャラビニエ・レピーヌ (Julie Carabinier Lépine) らと、伝統的なケベック音楽を奏でるミュージシャンとで、暮らしを共にしながら作品づくりをする。そもそも家族、友人と多くの時間を過ごしたいという願望と、彼らが子供の頃に過ごしたにぎやかな夜の時間、スプーンやタップダンスで伝統音楽を奏でた時間を具現化し、追体験したいというのがその始まりだったという。最初の作品『TABARNAK』<sup>44</sup> はまさに自分たちが育った村の教会に触発されて誕生したものであった。

2010年に2作目『TIMBER !』、2012年に『BARBU foire électro trad』を制作した。彼らはコロナ禍に入って牧歌的な農家に戻り、一緒に暮らしながら『ANIMAL histoire de ferme』という新作に取りかかっており、その様子を、納屋でのクリエーション風景と共に映像に収めている<sup>45</sup>。このように彼らは、自分たちが受け継いだケベックの伝統を作品に取り入れることで、古さと新しさが融合した演出を生み、独自性を放っているといえる。

#### 4-4. フリップ・ファブリック (FLIP Fabrique)<sup>46</sup>

フリップ・ファブリックは、ブルーノ・ガニヨン (Bruno Gagnon) を中心に、ケベックサーカス学校で出会った7人が2011年結成した。2020年3月14日まで作品『Transit』でフランスツアーを行っていたが、コロナ禍によりキャンセルとなる。新作『6°』のクリエーションを2020年夏に郊外で実施し、9月18日からケベックツアーを行う予定であったが、これも多くがキャンセルまたは延期となった。代わりに制作現場を撮影した30分のドキュメンタリー番組「FLIP Fabrique : Du cirque en temps de pandémie」が、2020年12月テレビで放映された。このように、ショーを映像作品として作っていく方向性は、演劇界や音楽界などでも同様にあるが、ふだん見られないサーカス作品の制作現場を紹介するコンテンツは珍しいといえる。

同様に11月、彼らはTOHUのスタジオを使って、サーカス短編映画の撮影を3日間行った。「LABORATOIRE プロジェクト」と題されたこの実験的プロジェクトは、『L'Improcirque』<sup>47</sup>に参加しているアーティストや音楽バンドのイニシアチブによるもので、彼らの映画以外に8本が撮影された。このように新しい挑戦を続ける中で、2021年4-5月に予定されていた13作目の新作『Brizzard』もキャンセルとなる。現時点では『6°』が2022年3月に、『Brizzard』が同年4月に、国内で上演予定である。

#### 4-5. マシン・ドゥ・シルク (Machine de Cirque) <sup>48</sup>

マシン・ドゥ・シルクといえば「タオルダンス」というほど、いまや有名な演目になった。2013年ヴィンセント・デュベ (Vincent Dubé) を中心に設立し、大いに笑わせてくれる現代サーカスでありながら、技術の高さでも定評がある。日本では2018年にショー『マシン・ドゥ・シルク』でツアー公演を行っている。2020年春と夏に計画していたワールドツアーはコロナ禍でキャンセルとなったが、2020年8月にはサンローラン川を背景に野外で行う短いショー『FLEUVE』を5作目の新作として発表している。

彼らもまた2020年、多くの挑戦を重ねている。たとえば、ドライブインシアターでサーカスができないかと打診し、10月には2日間、フランスのオーシュで開催される有名なサーカスフェスティバルで、ショー『Ghost Light : entre la chute et l'envol』を世界初披露した。同年11月には、専用スタジオをケベックシティの歴史的な教会の中に設置することを発表し、3年間の契約を結んだ。そこでミュージシャンのためのプログラムを開講し、ケベック州立美術館 (MNBAQ) と組んでショー『La Garellie』を短編映画にする撮影を行った。これは、2021年秋に公開予定である。

#### 5. アジアの現代サーカスの動き

コロナ禍においては日本のサーカス界も同様に、公演の延期や中止に見舞われ、上演できたとしても、人数を制限しての開催や無観客リモート開催を余儀なくされている。しかしながら前述したとおり、ここ10年、アジアにおいて現代サーカスの動きは非常に活発である。要因のひとつとして、SNSや動画サイトの普及が挙げられよう。大道芸やストリートアート、フリンジ、演劇などのフェスティバル、オーディション番組などが増えたことで情報が世界に拡散しやすくなり、サーカスを目にする機会が増えた。そうして、非日常なものであったサーカスが、日常へと入り込んできたのである。

日本でも、シルク・ドゥ・ソレイユのショーに出演し経験を積んだ日本人は延べ50人以上になっており、指導者になっていたりショーをつくったりしている。また、一般の人がフィットネス感覚で気軽にエアリアルティシューや空中ブランコなどのサーカストレーニングができるスタジオも増えている。このようにサーカスは、より身近なものとなってきているのである。

サーカスは、トレーニングをすることで自信がついて自己肯定感が高まったり、人と協力する中で協調性やコミュニケーション能力が高まったりと、

教育的・臨床的効果も期待できる。これらは心身に障害を持つ人や社会的弱者、暴力や虐待、薬物依存など何らかの問題を抱えた人々などに対しても有効であり、サーカスをツールとして応用した社会変革活動「ソーシャル・サーカス」のネットワークは、世界各地に広がっている。実はこれもシルク・ドゥ・ソレイユが1995年から続けている社会貢献活動「シルク・ドゥ・モンド (Cirque du Monde)」がリーダーシップを取り、大きな役割を果たしてきた。カナダでのソーシャル・サーカスは2011年に設立したNPO「シルク・オール・ピスト (Cirque Hors Piste)」が活動を行っている。このようにサーカスは、ただ見る/見せるだけのものではなく、ダンスや演劇と同様に応用価値のある芸術文化といえる。これを長年世界各地で行ってきたケベックは、サーカスを社会に必要な芸術として広く認識してもらうために、その実績や有効性をもっと打ち出してもいいのではないだろうか。

たとえば台湾では、2016年から、サーカスアーティストの陳星合（チェン・シンホー）とコンテンポラリーダンサーでパートナーの江侑倫（ジュン・ヨウレン）とが中心となって、大規模なサーカスフェスティバルやジャグリングバトルを高雄や台北で毎年開催し、非常に注目されている。2017年12月に3日間行われた高雄での『未来馬戲実験場 (Future Circus Lab)』には、ケベックのサーカスカンパニー『スロー・トゥ・キャッチ (Throw 2 Catch)』を招聘している<sup>49</sup>。行政や市民を巻き込みながら、欧米や日本などから招聘した多くのアーティストにワークショップを開いてもらったり、子供にサーカスの技を体験させたりと、サーカスを介して交流を深める機会を創造している。陳はシルク・ドゥ・ソレイユのラスベガスの常設ショー『カー (KÀ)』に出演していたアーティストで、退団後TEDやメディアなどでサーカスによって自身の未来を開いていった経験話す機会が増え、精神的にサーカス教育にも力を入れている。コロナ禍も自身のアクロバット教室を続け、2020年10月には仲間とサーカスフェスティバル『SHAKE SHAKE 新竹 SOUL』を開催した。

またベトナム、カンボジアでは、社会的に困難を抱えた若者がサーカスを学び、自国の伝統音楽を取り入れたサーカス公演を長期で開催するなど、現代サーカスの発展は目覚ましいものがある。

## おわりに

結論として、アン・ピストがまとめた調査報告書から、コロナ禍における

ケベックのサーカス芸術従事者の困難な状況と、コロナ禍を迎える以前は表面化していなかった2つの問題点——サーカス芸術従事者の所得及び労働環境の問題と、政府のサーカス芸術に対する位置づけや認識の差異の問題——が明らかとなった。さらに、コロナ禍を境に、ケベックのサーカス芸術の9割が海外市場に依拠してきたが故の脆弱性も露呈した。アン・ピストが提言したように、国内での需要拡大は今後の課題であること、ケベックサーカスが芸術として認識されていくことが重要である点を確認した。これらを踏まえて筆者は、1995年からシルク・ドゥ・ソレイユがリーダーシップを取って行ってきた「ソーシャル・サーカス」活動の実績や有効性に基づき、社会や市民からもサーカス芸術が認識され、必要とされるものにしていくこと、ケベックにおけるサーカスの歴史や研究を深めて芸術分野の中でのサーカス芸術の位置づけを明らかにすることが有効ではないかと考える。

コロナ禍は多くの人々の生活を根底から変え、否応なしにシフトチェンジを迫っている。

ケベックのサーカスカンパニーも、代替案として、或いは今後の新展開として、ライブによる舞台表現を映像表現へと移行させ、あるいは新事業を立ち上げるなど、方向性を模索している。コロナ禍の鬱屈した日々で身体だけでなく心も解放させるツールとしてサーカスがもっと利用され、身近なものとなって根付いていけば、彼らの活躍の場もまた生まれるに違いない。

(にしもと まり フリーランスライター／大阪大学大学院)

注 (URL 最終閲覧日：2021年5月2日)

- 1 それ以前にロシアで始まっていたとされる説もある。
- 2 西洋で18世紀に誕生した近代サーカスは伝統サーカスとも呼ばれ、今も多くの伝統サーカス団が存続しており、ヌーヴォーシルクや現代サーカスとの境界はあいまいである。ヌーヴォーシルクや現代サーカスとは何か、何をもちて現代サーカスと呼ぶべきかという明確な定義はない。
- 3 この歴史については、西元まり (2003) 『アートサーカス サーカスを超えた魔力』 光文社新書、255-270頁、及び、西元まり (2008) 『シルク・ドゥ・ソレイユ サーカスを変えた創造力』 ランダムハウス講談社、192-200頁を参照。
- 4 正確には、3月に全体の95%にあたる4679人を一時解雇し、6月にそのうちの約3480人を完全解雇した。NHK「シルク・ドゥ・ソレイユ事業再生手続きへ コロナで収益ゼロに」2020年6月30日 (<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200630/k10012490141000.html>)。

- 5 西元 (2003)、88-89 頁。
- 6 主なヒット作品の演出家であり、演劇手法によってサーカスアーティストをトレーニングし芸術性を高めたフランコ・ドラゴヌ (Franco Dragone) が 1999 年に独立し、その後社外より人材をハンティングして経営陣を刷新した 2001 年を大きな節目とみている。西元 (2008)、121-125 頁。
- 7 W・チャン・キム、レネ・モボルニュ (2015) 『[新版] ブルー・オーシャン戦略—競争のない世界を創造する』ダイヤモンド社で、シルク・ドゥ・ソレイユはブルー・オーシャン戦略成功事例として取り上げられている。
- 8 内訳は、アメリカ・TPG キャピタル (TPG Capital LP) が 60%、中国・復星国際 (Fosun Capital Group) が 20%、ケベック州投資信託銀行 (CDPQ : Caisse de dépôt et placement du Québec) が 10 %。Ian Austen, « Sale of Cirque du Soleil Aims to Open Doors in China », *The New York Times*, 20 April 2015 (<https://www.nytimes.com/2015/04/21/business/dealbook/cirque-de-soleil-deal.html>).
- 9 Allison Lampert, « Cirque du Soleil sells majority stake to U.S., Chinese investors », *Reuters*, 20 April 2015. (<https://www.reuters.com/article/us-cirquedusoleil-m-a-tpg-idUSKBN0NB1AX2015042>).
- 10 CDPQ に 7500 万ドルで売却し、これによりそれぞれの株主の保有比率は、CDPQ が 10% から 20% に、TPG キャピタルが 60% から 55% に、復星国際が 20% から 25% となった。« Caisse de dépôt buys out Guy Laliberté's stake in Cirque du Soleil », *Montreal Gazette*, 17 Feb 2020 (<https://montrealgazette.com/news/local-news/caisse-de-depot-buys-out-guy-lalibertes-stake-in-cirque-du-soleil>).
- 11 西元 (2008)、120-129 頁。
- 12 9 億ドルの負債があったと報じられている。
- 13 この記事の中で負債は 10 億ドル以上とも書かれている。AFP BB News 「破産申請の「シルク・ドゥ・ソレイユ」コロナ禍で綱渡り」2020 年 6 月 30 日 (<https://www.afpbb.com/articles/-/3289076>).
- 14 NHK 「シルク・ドゥ・ソレイユ事業再生手続きへ コロナで収益ゼロに」2020 年 6 月 30 日 (<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200630/k10012490141000.html>).
- 15 9 億ドルの債務免除、最大 3 億 7500 万ドルの新規資金の拠出で合意。未払いの従業員賃金や請負業者への未払い金合計 2000 万ドルの基金も設立。
- 16 Nicolas Van Praet, « Cirque du Soleil's new owners eye next leap: the home audience », *The Globe and Mail*, 20 August 2020 (<https://www.theglobeandmail.com/business/article-whats-next-for-the-cirque-and-how-the-deal-was-done>).
- 17 ケベック州最大のテレビ局 TVA グループ社長であったラマーは、2001 年にシルク・ドゥ・ソレイユに社長兼 CEO として入社した。

- 18 Cirque du Soleil «THE SUN RISES. The intermission is over » (<https://www.cirquedusoleil.com/reopening>).
- 19 Cirque du Soleil (<https://www.cirquedusoleil.com/reopening#show-reopening-list>).
- 20 調査方法は、2020年4月6-19日、自営業者607人と109の組織にアンケートをオンラインで送り、それぞれ79%と77%の回収率であった。個人事業者の回答者のうち85%がケベック州在住者で、78%がカナダ国民であった。すなわち、カナダにおけるサーカス芸術は8割以上をケベック州が占めている。En Piste (2020), *Impacts of COVID-19 on the circus arts sector in Canada-Results of the surveys among artists, cultural workers and circus companies in Canada*. ([https://enpiste.qc.ca/medias/files/Publications%20et%20m%C3%A9dias/%C3%89tudes/Second%20survey%20results%20on%20the%20impacts%20of%20COVID-19%20on%20the%20circus%20sector\\_Dec2020.pdf](https://enpiste.qc.ca/medias/files/Publications%20et%20m%C3%A9dias/%C3%89tudes/Second%20survey%20results%20on%20the%20impacts%20of%20COVID-19%20on%20the%20circus%20sector_Dec2020.pdf)).
- 21 Jean Siag, « Deux artistes de cirque sur trois envisagent une transition de carrière », *La Presse*, Mai 22, 2020. (<https://www.lapresse.ca/arts/spectacles/2020-05-22/deux-artistes-de-cirque-sur-trois-envisagent-une-transition-de-carriere>) ; En Piste (2020), 前掲書。
- 22 En Piste (2017), *Sector Development Plan 2017-2027*, p. 2 ([https://enpiste.qc.ca/medias/files/Publications%20et%20m%C3%A9dias/Plan%20directeur/Sector\\_Development\\_Plan\\_2017-2027\\_EN.pdf](https://enpiste.qc.ca/medias/files/Publications%20et%20m%C3%A9dias/Plan%20directeur/Sector_Development_Plan_2017-2027_EN.pdf)).
- 23 直訳で「ケベックサーカス万歳」。ナショナルサーカス学校の卒業生でセブン・フィンガーズのアーティストでもあったフランシスコ・クルス (Francisco Cruz) が撮影を担当 (<https://www.facebook.com/Les7Doigts/videos/673790576519409>)。
- 24 MONTRÉAL COMPLÈTEMENT CIRQUE (<https://montrealcompletementcirque.com/>).
- 25 607人のサーカス芸術に関係する従事者と、121のサーカス芸術に関係する組織を対象に実施。En Piste (2021), *Partage de spécialistes en santé mentale*, 19 février 2021. (<https://enpiste.qc.ca/fr/nouvelle/425/partage-de-specialistes-en-sante-mentale>) ; En Piste (2020), 前掲書。
- 26 En Piste (2021), *Santé mentale : Parce qu'il faut en parler* (<https://enpiste.qc.ca/fr/evenement/131/sante-mentale-parce-qu-il-faut-en-parler>).
- 27 Mémoire par En Piste (2021), regroupement national des arts du cirque, « Révision de la loi sur le statut de l'artiste », 1 février 2021 (<https://enpiste.qc.ca/fr/nouvelle/395/un-memoire-pour-informer-la-revision-des-lois-sur-le-statut-de-l-artiste>).
- 28 Mémoire par En Piste (2021), pp. 4-5.
- 29 サーカス芸術従事者1人当たり平均4990ドルに対し、他の舞台芸術従事者は

- 8522 ドル。Mémoire par En Piste, p. 5.
- 30 Communiqué de Culture et Communications Québec, « La ministre Nathalie Roy annonce une aide de près de 12 M\$ pour soutenir le milieu des arts du cirque », le 22 avril, 2021 ([https://www.mcc.gouv.qc.ca/index.php?id=2328&no\\_cache=1&tx\\_ttnews%5bpbS%5d=1619031887&tx\\_ttnews%5btt\\_news%5d=8649&tx\\_ttnews%5bbackPid%5d=2321&cHash=0a947fe96aca1c43390361da7deccc6b](https://www.mcc.gouv.qc.ca/index.php?id=2328&no_cache=1&tx_ttnews%5bpbS%5d=1619031887&tx_ttnews%5btt_news%5d=8649&tx_ttnews%5bbackPid%5d=2321&cHash=0a947fe96aca1c43390361da7deccc6b)).
- 31 En Piste (2017), *Sector Development Plan 2017-2027*, p. 2.
- 32 *Ibid.*, p. 3.
- 33 *Ibid.*, p. 6.
- 34 En Piste (2021), *Pour le développement de la diffusion du cirque au Québec*, 29 avril 2021 (<https://enpiste.qc.ca/fr/destinationcirque>).
- 35 西元の修士論文『超域する現代サーカス — オーストラリアとカナダ・ケベック州を中心に』(2020)で、オーストラリアの現代サーカスについて検証している。
- 36 Circus Talk, « American Circus Alliance Launches Nationwide », April 19, 2021. « Over the next few months, this group grew, and the scope of the conversation expanded to include many issues including building a national coalition for the circus industry; recognition of circus as an art form; addressing equity, diversity, and inclusion within circus; response to the COVID-19 crisis; bridging the gap between circus students and the profession. » (下線は筆者: <https://circustalk.com/news/american-circus-alliance-launches-nationwide>).
- 37 L'École de cirque de Québec (<https://www.ecoledecirque.com/>).
- 38 創設者はシルク・ドゥ・ソレイユに1985-1990年在籍したノーマン・ラトゥレル (Normand Latourelle) で、2003年に設立。彼が演出したショー『Cavalia- A Magical Encounter Between Human and Horse』は馬50頭、アーティスト50人が出演。馬70頭、アーティスト50人による第2作『Odysseo』を2011年に発表し、世界一の規模を誇る巨大テントでワールドツアーを行った。Cavalia (<https://cavalia.com/>)、及びラトゥレルへのインタビュー (西元、2014年4月24日、カナダ・カルガリー)。
- 39 Cirque Éloize (<https://www.cirque-eloize.com/>)、及び西元(2003)の220-236頁、西元(2008)の163-172頁を参照。
- 40 1999年、モンリオール市街地北部サン・ミッシェル地区に、シルク・ドゥ・ソレイユとアン・ピスト、ナショナルサーカス学校の3つの団体が作った非営利団体「サーカス芸術都市計画」が後に「サーカスアーツ・コンプレックス」となり、2004年にTOHUという名称となってまちびらきした。名前の由来は、天地創造以前の混沌を意味する« tohu-bohu »より。西元(2008)の192-200頁を

参照。

- 41 Les 7 Doigts de la main (<https://7fingers.com/>)、及び西元 (2008) の 173-179 頁を参照。
- 42 Hotel Chronicles ([https://blog.7doigts.com/en/index.php/2020/04/16/hotel-chronicles-2/?\\_ga=2.232534175.1451450851.1619473655-1125860848.1619473655](https://blog.7doigts.com/en/index.php/2020/04/16/hotel-chronicles-2/?_ga=2.232534175.1451450851.1619473655-1125860848.1619473655)).
- 43 Cirque Alfonse (<https://cirquealfonse.com/>).
- 44 ケベックならではの言葉で、「もう!」「むかつく」「ちくしょう!」「信じられない」といった意味を持つ。
- 45 La Fabrique culturelle / Télé-Québec, « Dominer la bête, avec le Cirque Alfonse » ([https://www.lafabriqueculturelle.tv/capsules/12922/dominer-la-bete-avec-le-cirque-alfonse?fbclid=IwAR311K9-qaHVkrMVy1ehOUdx\\_Nux-y9b-ApjYYS74N5iVhM7drslRrl6LH4](https://www.lafabriqueculturelle.tv/capsules/12922/dominer-la-bete-avec-le-cirque-alfonse?fbclid=IwAR311K9-qaHVkrMVy1ehOUdx_Nux-y9b-ApjYYS74N5iVhM7drslRrl6LH4)).
- 46 FLIP Fabrique (<https://flipfabrique.com/>).
- 47 『インプロ・シルク』は、サーカスアーティストが5人ずつ2チームに分かれてサーカスの技を即興で競い合う対抗戦スタイルのショー。審査員や観客によって勝ち負けが決まるルール。モンリオール・サーカス・フェスティバルのプログラムでも見られる (<https://www.improcirque.com/?fbclid=IwAR0ZiCuwcVGTBUzUJ5CpihQEYhiLSzMkdQU7y47bdWMjbGJgIqWISaRUhhA>).
- 48 Machine de Cirque (<https://machinedecirque.com/>).
- 49 陳星合インタビュー (西元、2016年11月及び2017年12月、台湾・台北及び高雄)。